

令和7年度第2回 広島県総合教育会議（1/9）主な意見【概要】

(1) 全体

主な意見

- 広島らしさをどう出していくのかということが、全体的な大きな課題。

(2) 総論

主な意見

- 世界がどの国においても、より平和な社会を構築することが一層注目されている状況にある。こうした中で、広島県の存在というのが、世界的に重要なポジションになるのではないかと感じている。こういった要素も含めていただくことが可能ではないかと感じた。

(3) 各論

主な意見

柱1 乳幼児教育・保育の充実

- 重要なのは「遊びは学び」と唱えるのではなく、遊びなるものが学びとして価値あるものだということを確認し、それを実現すること。まさに自分らしさを表現するようなそんな遊びこそが重要で、それを幼児教育で実現し、家庭がそれを支えていくことが小学校につながるというふうなところがあってもいいのではないかと。
- 保護者としては、「遊びは学び」を実現をしたいと思っても、具体的に何をすればいいのか、どう実行すればいいのかわからないといった問題がある。この点に関しては、啓発に限らず、家庭に一步踏み込んで支援をするということまでしていただけることを期待している。

柱2 学びの変革の推進

- 学校で教科書に書かれた問題を解けるだけでなく、いろいろな異なる文脈、異なる状況で、知識をパッと思い出して、問題解決に使える知識（「生きた知識」）を育てるために重要なのは、子供たちを自立した学び手に育てるということ。記号設置（遊びを通じて身体に落とし込むこと）を助け、意味を考え続ける。そして知識の断片ではなく、体系を自分で作って「生きた知識」にする。そういうことができる教育の場を作っていただきたい。
- 生成AIなどの最先端なことをするあまりに基礎的な学力が落ちてしまわないようにしていただきたい。
- デジタルであろうとリアルであろうと、子供たちに現実社会の本物、働き方だったり生き方だったりというものを、学校教育の中に届ける仕組みを確立していかなければならない。学校の中に外の人たちをいかに呼び込むかというトレーニングが必要となってくる。
- 学校と地域をつなぐ、コーディネーター人材をいかに入れていくのか、配置していくのかということがとても大事。
- リアルな体験はキャリア教育だけでなく、自然体験だったり、生活体験だったり、地域での様々な伝統行事であったり、そういった活動も含む。そういう活動を支えている福山少年自然の家等の施設との連携も大事。地域学校協働活動推進員の育成は県立生涯学習センターでやっているし、県立図書館では様々な地域の子供たちに読み聞かせしたり、司書が地域の方たちの学習を支えている。そういうところも学校と地域をつないでいくとても大事な機関になる。

柱3 キャリア教育の推進

- 教育を教育の中だけに閉じるのではなく、社会との接続点をどうやってインストールするか。社会と学びついでいうものをどうやってつなげるかという装置を広島県全体で設計していただいて、それを一つの大きなエンジンにしていくという発想をぜひやっていただきたい。
- 広島がより地域とともにあるようなキャリア教育、例えば、地域理解を伴い、地域の愛着を得、あるいは人との関わり合いまで、まさにその人の生き様を学ぶ。そのことは結果的に子供たちが地域との深いつながりを得るとのことだと思いが、こういったことこそが、まさにその子一人一人の将来にわたるキャリア教育につながるんだというようなものがあるといいのではないかと。
- 今まで正解を求める教育だったのが、正解を創る教育に変わってきている。そういったことを県教育委員会が開設した「ミツカル！ひろしまカンパニー」も使いながら、学校と企業が連携をしっかりと取ってやっていかなくてはならない。

主な意見

- 半導体産業など先進分野の人材の育成は非常に大切なことだと思うが、熱処理、お鍛造、鋳造といった部分の担い手がなくなってしまうとモノが作れなくなってしまうという危機感を感じる。先進分野以外のところにも子供たちの目を向けさせていくというのも教育の役目だと思う。
- キャリア教育をする際には産業界との連携も必要ではあるが、「こういう大人になりたい」と子供が夢や希望を持てるキャリア教育をしていただきたい。

柱4 特別支援教育の充実

- 通常学級における特別な支援を求める子供たち、あるいは特別支援学級における指導のあり方、あるいは通級指導といったものにももう少し目配せをしていくことが、今まさに求められている。こういったところにも少し配慮していただくという方向性もあるのではないかな。

柱6 子供の学びを支える基盤づくり

- 教職員の働き方改革、メンタルヘルス対策というのをしっかりお願いをしたい。
- 将来、教員になりたいと思ってくれる児童生徒のためにも、教員の「働きやすさ」、「働きがい」を持って職場にいられるというような職場づくりをすべきである。
- 私学高校の授業料の実質無償化がこの春から実施され、県立学校に入学する生徒数がどのように変化するのか注目されてくる。魅力化・特色化をますます出していかないと、公立高校、公立学校にとっては大変な時代になる。
- 先生の不祥事が多いことへの対応として、骨子には一丸となって不祥事根絶に向けて取り組むとあるが、先生の倫理観とか先生のストレスを防止させるために風通しを良くするとか、心理的安全性を高めるといった具体的な対策を書いてはどうか。
- 全県で幅広く「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を実施していくためには、能力のある教員だけでなく全ての教員が授業改善を行っていく必要があり、「専門性の向上」が全ての教員に及ぶような仕組み化、システム化が必要。
- 近年、教員の採用倍率が低下している中で、優秀かつ熱意ある人材の確保も喫緊の課題であるため、採用、人材確保についても記載してはどうか。

柱7 高等教育の充実

- 本県が直面する社会減、若者の転出超過への対応策として、県立広島大学や叡啓大学における人材育成の取組だけでなく、県内の私立大学も含めて、現大綱に記載されている「県内の大学連携の推進」に一層取り組んでいく必要がある。この点について記載すべき

柱8 生涯にわたって学び続けるための環境づくり

- 地域で子供の成長を支える人材、社会教育人材と呼んでいるが、社会の中で教育をすることができる人たちが、子供たちの成長や次世代の成長に対して、興味や関心や、そして支援をする力を持っている人たちをいかに育てていくのかということが大事。また、学校と地域をつなぐ、コーディネーター人材をいかに入れていくのか、配置していくのかということがとても大事。